演習科目：冬のフィールド管理演習
担当教員：加藤正人
実習日：平成27年2月3日（火）～2月6日（金）
受講人数：11名（京都大学大学院2名、筑波大学大学院8名、東京農工大学1名）

1. 演習の満足度について

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>大変満足</th>
<th>満足</th>
<th>普通</th>
<th>不満</th>
<th>大いに不満</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td>9</td>
<td>2</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2. 今回の演習で学んだことを3つ挙げてください。
・歩くスキーの滑り方、山の登り方、技術など…3人
・雪上動物足跡の見分け方…2人
・雪かき作業時　注意点・やり方など…2人
・雪かきの難しさ、大変さなど…3人
・雪国の気候
・スキーの難しさ
・雪のおもしろさや危険さ
・規則正しい生活（規律ある生活をすると、1日の時間をたくさん使えることなど）…2人
・雪のある森には、動物の足跡などその森ならではの研究ができるように、雪ならではの研究があること。
・雪国での生活は大変でつらいことばかりではない。自然と上手に関わりながら、その自然を楽しみ暮らしている。
・クロスカントリースキーは面白い。夏ではスイスイ行けないような場所？にも行ける。
・冬は（雪は）動物を身近に感じられる。
・森⇔草原　相互交換すること
・雪国での生活など（楽しそ、大変さ、美しいところで、工夫）…2人
・アニマルトラッキングの楽しみ方
・生物学的な視点（動物・植物の視点に立って？）自然を観察すること
・菅平という土地の地理的・生態的特徴
・菅の研究対象であるは乳類が生きていくためには、植物をはじめとする他の生物の存在が必要であること。
・フィールドワークは体力を使うので、もっと運動しようと思った。
・山を歩くということはどういうことかを知ることができた。
・うまくできなかったときは、人にツツを開いた方がいい。
・スノーシューはしっかり足にはめないと、外れる。
・スノーシューをはくと足が雪にしじみにくくなら、スキーをはくと歩くよりも少ない力で山を進めれる。
・雪かきは無心に作業できて、達成度も目に見えるし、楽しい！！
・フィールドを見て、人と話をすることで、自分の研究に対するヒントをたくさんもらうことができた。
・フィールドデザインの同定能力が足りないことを認識することができ、また新たに教えていただいたことで見分けられるようになったデザインがあった。
・草原・森林の形成について
・雪景色の美しさ
・雪の中で移動することの大変さ
3. 今回の実習で良かったことを二つ挙げ、その理由を書いてください。

・交流会でコミュニケーションできた。（刺激をうけた。これまであったことのない研究分野の人と会って、おもしろい話を聞けた）…2人
・ベンチャンでご飯の間、毎食飲み会の間、楽しかった。
・予想より転ぶ回数が少なかった。先生たちの熱心な指導。
・スキルの技術に触れることができた。
・スノートレッキングの楽しさと植生に関する知識を学習できた。
・雪原ではのアクティビティ（クロスカントリー、スノーシューなど）ができました。
(スノースポーツのおもしろさや森林のおもしろさが学べたため)
・他大学の学生と交流ができました。（あまりない機会なので良い体験ができ、話をすることで新鮮で面白そう）…3人

・地元の方との交流でもいろいろな話が聞いて良かった。

・ベンチャンでの交流。一番雪国での生活というもの自身に感じることが多かった。
・雪でいっぱい体験できること（雪の経験がない人にとって非常にいいチャンスだと思う）
・ベンチャンでの雪かき（雪国での生活について勉強になると思う）
・早寝早起きができたこと。（普段は夜更かして、昼まで寝ているから）

・それぞれの分野の専門家・エキスパートの方々が熱意を持ってお手伝いをしてくれたため。

・世論座学では学べないようなことが体験でき、その魅力も大変ストレートに伝わってきてしまった。

・他大学・異分野の学生が参加していたことも。

・上記のような学生とは日頃一緒に授業を受けたり交流することができないので、刺激も受かしな粋に楽しかった。

・野外で研究するのほんと感覚を少し体験することができた。自分の適性を考えさせられたが、具体的にイメージがしやすくなった。

・青年の家で予想以上に暖かく、ごはんがおいしく、過ごしやすかったこと。
・ベンチャンで食べたケーキ、料理にほほえもれそうになったこと。
・ベンチャンで出してくれた昼食がとても美味しかった。

・座学が少なく、体験が多かったため、非常に中身が濃い実習であった。

・強制的に交流会の時間に設けられていたり、班の割り振りが考えられていたり、普段関わりにくい人たちと話すことができ、いろいろな話を聞けた。

4. 今回の実習で嫌だったことを2つ挙げ、その理由を書いてください。

・お風呂の時間が少ない。人数が多くて、利用時間に混んでいた。
・往復交通不便。かなり時間がかかった。
・コインランドリーの洗濯機が臭い

・雪の中での集団行動は、急がなくてはならない場面もあったため、筋力がついていかなくて辛いこともあった。

・早朝に部屋や廊下が寒いことがやや嫌であった。

・3日目のスノーシューで歩く時、後から合流するグループだったが、なかなか本体のグループが来ず焦った。

-男女同じ洗面所を使う。（理由は不透明感があった）

・お風呂の時間が短い。（ひどくあつなくなっ。始まる時間を早くすればよいのではないでしょうか？帰ってすぐ入りたいだ）…2人

・普段、人気で共同生活をすることが無いか、大変な点もありました。
・講義がお風呂・夕食の後だったため、とても眠かったです。
・つくばからの移動がやや大変だった。（もし参加者が増えればバスを借りたりできる？）

・大きな荷物を持って、何回も乗り換えなければならなかったため。

・スキーではもう少し初心者やつまずいてしまった人のフォローがあっても良かったのではないかと思ったが、それが面白さであったと思う。

・3日目の朝、余裕がなかった。隣室等については、前日にもう少しガイダンスがあったら良かった。

・3日目のスノーシューのときは疲れ MAX で足が進まなかった。

・スノーシューで歩くコースは行きと帰りともに別っても良かったと思う。いろんな景色がみれる。

・部屋が人数に対して狭かった。

・スリッパが小さくて履きにくかった。

・クロスカントリーのコースが初めからかなり激しかった。
5. 実習についての感想、要望
＜感想＞
・毎日、団体活動もほかの人たちとの交流もでき、おもしろい話も聞けました。この授業を研究室の同級生に紹介したいです。結構嬉しかったけど、得てたと思います。
・非常に充実した実習内容で、冬の高原での共同生活を楽しむことができた。しかし、3泊4日のフィールド活動の中でクロスカントリーを1日しかできなかったのが心残りである。
・雪かきに関しては、雪国でペンションを営む方々との交流は貴重だった。
・普段接しない雪を使った様々な活動ができて良かった。初めて行う活動ばかりで、大変なこともあったが、楽しく行った。雪ならんではスポーツや、雪に対応した生活を学ぶことができた。
・雪が大量に降る地域ではペンションでは売っている方々の生活が不便なことも多くあったが、雪かきや降雪車、家屋の清掃など、雪に対応した生活をしていて、楽しそうだった。そのような方々の話を聞けて勉強になった。
・森林の研究の話が興味深かった。雪のない地域では聞いたことのないような内容で新鮮だった。
・アミールトレッキングや森林観察は楽しかった。
・いろいろな方が交流ができ、アクティビティも楽ししく行うことができて良い体験だった。
・雪国は言う通り、大変というマイナスなイメージを抱いていたが、この実習を通じてそのイメージ・印象は変わった。雪かきを行ったペンションでの交流では、冬の厳しい自然環境の中でも、その自然と手につき合い、時には楽しむ雪国の生活の一部を垣間見ることができたと思う。住居へのこだわり、動物とのふれあい、とても印象に残った。
・歩くスキー・クロスカントリースキーの面白さを知った。雪に覆われた大地をスキーで進んでいくのはとても楽しかった。動物の足跡を見て動物を身近に感じることが出来て、非常に感動できた。
・研究に追われる毎日から少しだけ離れ、このような初めての体験、自分のイメージを大きく変えるような体験をすることが出来て本当に充実していた。
・ぜひこの実習を来年度以降も沢山の学生に経験してほしいです。
・実家に雪が降るが長野みたいに非常に厚くまで積もらない。3泊4日の実習でいろいろ勉強・経験した。一番実用なので雪かき、雪が方法・道具の使い方など生活に役立つと思う。
・ペンションのオーナーさんに招まれ、家庭が旅館と思い、いつかチャンスがあったったら一度でも泊まってみたい。
・実習へ参加する前にスキーを2回行ったが、あまり姿勢正しくなかった。ここで先生が教えてくれて勉強になった。それにリフトじめていて、スキーで登って、登り方良くできるようになった。あまり客がないところを滑られて初めて体験した。非常に良い経験になった。
・町田先生、田中先生の講義で動物の足跡、草原の変化で勉強になった。えさは全然知らないかった。
・今回冬に来て、すばらしい白い雪国生活を経験した。これは自分が豊富で夏もきっと楽しいと思う。また、チャンスがあったら夏にも来てみたい。
・2年生からD3まで幅広い年齢層の受講生で、大学もバラバラで、とても良い交流の機会となりました。
・毎日バランスのよい食事を決めた時間に主食食べ、早寝早起きをして、外の美しい自然を見て、きれいな空気を吸い、心身共に清められた気持ちです。
・動物や鳥の姿や足跡、また植物や森の様子は先生のお話をお聞かせした時に見ると、以前よりも壮大で興味深く思い出しました。
・初めてクロスカントリーやスノーシュー、雪かきで実際に雪国の生活に触れられた中でも、実りある演習であったと思います。
・たくさん活動して活動したので、毎回のごはんがとてもおいしく感じ、食べ過ぎなくらいたくさん食べてしまうこともあります。
・今回の実習は、自分にとって「気づき」を得られたという点で非常に有意義でした。その気づきとは、生物学的に自然を観察する視点、都会（街）以外に住む人の目線を感じることが出来たということです。大学院で都市計画を学ぶ私は知らず知らずにうちに人間中心、都市中心の考え方で規模を意識して生活をしていたことに気づくことができました。今回学んだ生物学、山村の視点は自分自身にも活かせることもあると思いますし、豊かな人生を送るためにも重要だと感じました。
・将来、フィールドワークのような事がやりたくて、今は実室室での実験しかしていないので、少しでも雪国を訪れ、技術を実習したいと思って受講しました。実際に雪の中を歩き見て、思った以上に移動が難しく、すぐに飛び込む世界ではないことを痛感しました。
・先生や仲間にアドバイスをもらったり、スキーとテニスが好きで移住してこられたというペンションのご主人のお話を聞いたりして「大変」ばかりではないことも学べました。
・スキーは、最初はもうムリだと思ったけれど、練習するうちに少しコツをつかめた気がします。
・アニマルトラッキングや植物の講義はとても勉強になりました。
・信大の人もいろんな専攻、学年の人が混ざっていて、森林専攻の人ばかりじゃなくて楽しかった。
・ただ、他大学生はほとんど皆授業だったのので、もっと多様な大学の学生がいても良かったかなと思っ
た。
・たくさん体を動かさせてリフレッシュできたのが一番よかった。年をとってくると子どもの頃の気持
ちを忘れがちだが、雪の中で、わーわーきゃきゃー騒ぎながら、みんなで初の山スキーを習って、
たくさん転んで失敗して、でも笑って、とても無邪気に過ごせた。競わず、争わず、失敗しても全然
恥ずかしくない、責められない環境って、なかなか無いと思う。良い意味でリセットできたので、こ
の気持ちを忘れず、これからも過ごしていきたい。
・3泊4日の実習であっという間に終わってしまいましたが、非常に多くのことを学ぶことができた有意
義な実習だった。今後の自分の研究テーマ決定では冬山に頻繁に出かけるかもしれない。
・今回実習を受けたことで、山スキーの技術も上がり、基礎も学べたので大きな自信になった。
・雪かきも一歩間違えば大事故につながるが、危機回避の方法などもレクチャーしていただけたので、
今後雪国で生活することにも大丈夫だと思う。
・他大学他学科から一人での参加ということで、やや不安を感じていました。しかし、よく考えられ
たプログラムと周囲の優秀な学生さんたちのおかげで特に問題なく、むしろ楽しく実習を行うことが
できたように思います。
・実習の中身につきましては、非常に素晴らしいものであったと思います。特に私は雪も山も森もな
じみがなかったため、驚きと発見の連続でした。
・加藤先生からはスノースポーツの楽しさを、ベンションのオーナーさんからは雪国暮らしだの大変さ
と楽しさを、そして田中先生からは雪に包まれた森の中でたくさん生きている生き物たちについて、
教えていただきました。
・今回の体験を通じて、雪国でのバイオテクノロジー利用そして森林資源利用における人間と森とのつき
合い方についての考えを深めていければと考えています。

＜要望など＞
・今回筑波大での募集は院生向けのものでしたのが、学群生も授業として受講できるようにしたら良い
と思います。
・私自身の問題でもあるのですが、他の学生と比較するとあまりにも実習慣れていないと感じる
ことが多々ありました。例えば、荷物の量など私の3分の1で済んでいる人もいるくらいでした。仕
の座席を考えると荷物の大きさに制限をかけたほうがいいかもしれないです。
受講者アンケート集計（農学部）

演習科目：冬のフィールド管理演習
担当教員：加藤正人 他
実 習 日：平成 27 年 2 月 3 日（火）～2 月 6 日（金）
受講人数：14 名（森林学科 10 名、食料生産学科 4 名）

1. 演習の満足度について

<table>
<thead>
<tr>
<th>大大満足</th>
<th>満足</th>
<th>普通</th>
<th>不満</th>
<th>大いに不満</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>9</td>
<td>5</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
<td>0</td>
</tr>
</tbody>
</table>

2. 今回の演習で学んだことを 3 つ挙げてください。
・クロスカントリーの技術、やり方、楽しさ など…2人
・動物の足跡、見つけ方、様々な情報が読み取れる など…7人
・雪かきの大変さ
・豪雪地帯の生活…2人
・日本の草原
・冬の動物たち
・信州は標高の高い山がいくつも連なっていて、進化（適応進化）を研究する宝だということ。
・クロスカントリーは、冬の山を観察・調査するのはとても良い方法で、冬で雪で覆われ、やぶ等で見えなくなってしまって、行けないところも行けるので便利で楽しいということ。
・冬に動物は姿をあらわさず、いないのではなく、雪の上にいた足跡を見ることでどんな動物が生息しているか、ふん等を調べ何を食べているかまで分かる。
・他大学について
・集団行動の大切さ
・雪国（雪山）での暮らし（苦労、積雪による生活の大変さ、特殊なこと など）…5人
・雪上歩行の種類と実践、歩き方 など…2人
・草原の遷移
・歩くスキー（クロスカントリー）の難しさ…2人
・スノーシューの便利さ
・アニマルトラッキング
・歩くスキーの楽しみ方
・菅平の自然の良さ
・自然を身近に感じた
・知らない人との交流
・雪山は楽しいこと
・雪国での生活は雪と共にあり不便と楽しさがある。
・鳥・動物…多くの生物もまた雪と共に生活している。
・雪での厳しさは人を強くする。
・スノーシューでの活動
・多雪地域の雪かき事情、現状 など…2人

3. 今回の実習で「良かったこと」を 2 つ挙げ、その理由を書いてください。
・色々なことをやっていき方と交流できて勉強になった。
・自然の中で遊び、学ぶことができた。
・クロスカントリー（普段ゲレンデでは体験できない遊びができた、スキーとは全く違うスポーツの魅力を感じることができた）…2人
・毎日の交流会（初対面の方々と仲良くなれるいい機会になった、初対面の人と多く話すことができた）…2人
・休息時間が多く、実習後自分の中で考えおとなしめる時間がとれたこと。
・交流会で普段絶対話せない人と話せ、仲が深まったこと。
・他大学の学生と交流を深めることができたこと。信大生以外の学生が自分の大学で何を学んでいるのかなど、知らないことがいっぱいあり興味深かったから。
・雪国でできないスノースポーツ、スノーシューでの野生観察ができたこと。日常生活では体
験できないことが体験できたから。
・積極的に実習に参加することが多かったこと。（自分含め）（刺激的で楽しい実習であったから）
・スキーやスノーシューの時間も非常に設けてもらったこと。
・田中先生の植物生態のお話がとても興味深く、聞いて良かった。
・交流会では他大学の学生と学術会をことができてよかった。
・スキーやスノーシューを使って雪の上を移動できたこと。（雪があると行動が制限されるのでなく、逆に行動範囲が広がることがわかったから）
・自分の専門と違う学問について、分かりやすく説明してもらったこと。（生物学も面白いと思ったから）
・雪の中でたくさん動れた。
・ペンションでの昼食。（研究をしている人たちの熱心な話を聞けた）
・ペンションでのご飯がおいしかった。
・他大学や他学年、学部、地域の方々と交流することができ、有意義な時間となった。
・生活（規則正しくできた）
・豪雪地域での生活や自然を体験できたこと。（普段は経験することができないので）
・知らなかった人と交流できたこと。（他大学の人と関わる機会はあまりなく、同じ大学でもつながりが増えたのだが）
・アニマルトラッキング（色々な動物の生態に触れることができたから、生態動物に新しく触れることができ感動した）…２人
・交流会（他大学と話す機会は農学部ではありませんので、新鮮で楽しかったし、また勉強にもなった）
・雪はね作業（現地のペンションの方と交流しながら色々な話をできてから）
・スノーシュート（初めてだったので、楽しかった。どのようなものか知ることができた）

4．今回の実習で「嫌だったこと」を２つ挙げ、その理由を書いてください。
・最終日の掃除割り振り。朝食準備のことをなにかしてみたかった。
・食事時間が短い。「ごちそうさま」をした後に食べることができしばしばあったので、もっとゆっくり話しながら食べていたかった など…２人
・起床時間（一日の予定を通してみても少し遅いできただけの朝が早く講義中休むことができた多くのことが多かった）…２人
・スケジュールのタイトさ（やりが物足りなくてはとたまたることが多かった。時間が限られているため入浴、最終日の掃除、帰り支度の両立など急いでとてもされてしまった）
・ふだなどのときにつけるか分からなかったので困りました。
・ペンションでの食事の時間等が短く、もっとペンションの方と話したいかったです。
・洗髪を守らない。（集団生活であるので）
・ペンションの雪かき後にスノーシューハイク集合する時、1時間ほど待ったりした。
・交流会は自由参加にすべきだと思う。（早く寝たかった。でも交流は大切な思うから、なくてはならないと思う）
・実習中は足が冷たく、大変だった。
・雪が靴の中に入ったりした。（気持ち悪いかった）
・日焼け（日によると日焼けは予想以上でヒリヒリした）
・退所の準備の時間が短すぎたこと（朝食当番とかぶると時間までに終わらないので。早く終わったらどこかに手伝ってほしかった）
・スキーの斜面の上り下り（足に滑るものをはって斜面を歩くのは怖いから）
・朝のつどい（人の集まりは楽しいし、スケジュール確認は朝食時で良いと思う）
・夜の授業。翌朝でも大丈夫だと思う。
・3日目午後のスノーシューの際、説明が全然聞こえなかった。後ろの方にいると意味がなかった。
・掃除時間が短かった。割り振りなども、人数・ご飯の用意の有無なども考慮してほしかった。

5．実習についての感想、要望
＜感想＞
・他大学との交流もあり、非常に楽しく過ごすことができた。
・雪だらけではの楽しみ方ができましたし、初めての体験をたくさんできた。
・2日目のスノーシューで歩いた道は、クロスカントリーでも滑ってみたいと思うほど興味を持つことができた。静岡では絶対に行えない経験だった。
・最終日の足跡を探すフィールドワークも興味深く、伊那に戻ったら自分でも探してみたいと思った。
夜の交流会では多くの人と話ができる。特に、今回の交流会ではマスター、ドクター、教授のモードで、マスターやドクターについて知ることができたし、専門的な話をすると、自分の不勉強さを知ることができて、とてもよい刺激になった。大学が春休みになり、このレガシーが考えように勉強していきたい。

他大学と交流できるような講義に参加したいと思う。

長野県に住んでいてもなかなか体験できない雪風景ができたこと、またそれをを通して地元の人々と交流することができ、貴重な体験ができた。

楽しむときは楽しみ、学ぶときは学ぶという切り替えもはっきりしていて、とても充実した3泊4日を過ごすことができた。

他大学の研究に興味のある講義もあり、今後の自分の活動に影響を与えてくれそうで、高揚感を得ることができた。

普段の授業だけでなく、このような実習の良さを知り、積極的に活動していくことと思った。

最初は、あまり目標をもたず来た実習でしたが、初めて経験が多く、現在の進路を考えるときに研究室選びの参考にしたいと思いました。

クスクントリーは初めてで、コースのないスキーやどうすればいいか分からないけれど、冬の雪を滑ることができてとても楽しかったです。転んでばかりでましたが、コースのないスキーで行きたいところに行ける魅力があり、爽快感を感じました。

伊那はあまり雪は積もることもあり、20 cm前後ですが、須坂は2 mくらいの積もるということで、時にお年寄りの方の雪風景が本当に大変だというものが出たＹさんとしました。私でも手がしぼれたり、肩に力が入らなかったりと、最後までやったあとはとても疲れました。高野さんがする際はとても休憩が必要で、時間もかかり大変だと思います。実習や他の機会にも是非やりたいと思いました。

田中先生の研究内容にとても興味を持ちました。標高と植物それぞれから遺伝、進化と、森林では生物をあまり使いませんが、木でも適応変化がおきているか調査したいと思いました。

今回の実習は初めてなことばかりで大変充実した時間を過ごすことができました。他大学の学生とも仲良くできるような時間もたくさん作ってもらい、本当に楽しかったです。

集団生活においても、ルームメイトとの助け合いや時間を厳守しなければならないことなど大切なことを数多く学ぶことができました。何より誰も大きなケガをしていないで無事に実習を終えることができてほっとしています。多くの仲間ができた今回の実習はとても良い思い出になりました。

初めてつくした実習で3泊4日はあってかという間においにいきました。白雪を行くのに、幸せでスキーとスノーシューを体験させていただき、視野や行動範囲が少しずつ広がったように感じます。

アニマルトラッキングでは、私は大学で山歩きをしますので、新たな山歩きの楽しみ方が増えました。山域による違い等を感じられるような観察ができたらなと、夢が膨らみます。

実習中は、観察生活を楽しむことができました。青森の家をはじめ、先生方、TAの方に感謝致します。

クスクントリーでの歩くスキーなどスノーシュートハイク、豪雪地域での雪風景、アニマルトラッキングと日常では体験しないことを経験することができて有意義でした。

ベンション（ビシブリ）での雪風景は想像以上の重労働で体的には辛かったが、ベンションのオーナーと話したり、犬と遊んだりと楽しむことができました。

3日目の夜、町田先生と田中先生の講義は動物の足跡やウンについて、植物生態についてと興味を持たされました。

冬の雪見は多少なりとも感じることができたので、春、夏、秋と違った青空の姿も見たいと思います。

雪の上の実習は、普段受けていくことがなかったから、とても新鮮だった。スキーは楽しかったけれど、全然うまく滑ることができなかった。うまく滑ることは練習して技術を身につける必要があると思った。スノーシューは初心者の自分でもうまく移動することができた。スキーに比べ、スノーシューは体を使えるかもしれないしが自分が何処の方向に向いていると思った。ただ移動速度はスキーの方が速いので、機会があれば練習してみたいと思った。

自分は工学系なので生物学はあまり好きではなかったが、今回田中先生の研究の話を聞いて、生物学も面白いなと思った。ある結果を知るために、あらゆる手法で一つのテーマに対してアプローチをしていてすごいと思った。その実験方法等を聞いていて、私を工学分野と本質的には同じなんだなと思った。理科系の中でも様々な分野があるが、このような講義を通じて生物学もおそらく他の違う分野もきっと面白そうなだろうということを知ることができた。

ものすごい雪と寒さという伊那に住んでいる身には一見手厳しい環境がスキーや足跡によって楽しいフィールドに早変わりすることをたくさん遊んで体験することができたと思う。特に歩くスキーは、雪上をすばやく静かに移動できる、細く軽いので持ち運びが楽、斜面を登る時も楽しいなどまたやりたいと思った。
クロスカントリーに始まり、スノーシューやアニマルトレッキング、雪かきなどでこの実習に来なくては体験できないような事ばかりだった。
雪かきの作業はきつく、大変だったが、ペンションの方々との交流はとても楽しかった。ペンシオ
ンの雰囲気や食事も素晴らしいものであった。
夜の交流会も他大学や他学年の方々と交流することができ、とても充実した3日間になった。
3泊4日というと少し長いかなと思っていったが、初めてやることが多く、また、色んな人と関
われて、終わってみれば、一瞬だった。
普段の生活でも雪は降るが、大したことない気が思い知られた。冬の雪という環境を通してさまざまな経験ができ、すごくたった。ただ、寒さでなくて、雪が多い、多くの遊びもでき、楽しかった。
早寝、早起き、三食ごはんという規則正しい生活から解放されるのは悲しんだ。
全体を通して、この実習を取って良かったと思う。
大変楽しい3泊4日でした。ただ雪国での生活を体験するのではなく、集団行動や交流会をする
ことで深めるような内容が多かったのが良かったです。
雪かき体験では、ペンションの方との交流や美味しい食事を頂いたことが嬉しかったです。
クロスカントリースキーは最初全くできませんが、少しずつ滑れるようになってきところ
で終わってしまったのが残念でした。
先生のように滑りたいです。何より先生が一番楽しそうでしたね。先生方の研究は面白いうものば
かりで楽しかったです。
実習であり、授業であるのだが、全体的に和気あいあいと楽しくて、あまりそういう気がしま
くてよかった。
雪と触れ合う機会があまりないため、すぐに疲れてしまったが、休憩や予備時間が多くて、無理
がないスケジュールなことは非常に助かったし、交流会を設けていただいて、他大学の生徒や先
生と交流を深められたりしたのは、非常に良かった。
T.Aや先生方が実習中に、割と多くいたので、質問をすぐにできたり、助けられたりできた
ため、実習中も不便なく新たな知識を得ることができた。
雪かきも地域の人と交流を深められて楽しかった。
今回の実習を通して思うことは、参加できて良かったということです。雪国での暮らしをより
深く学べたことはいい経験になりました。自分の実家も雪国なんですが、それよりも雪の深いた
ところに4日間いることができたことは、自分にとって大きな収穫です。
大勢の人と話し、生活することは自分を強くするとともに自分に足りない部分を見つけることも
できました。
雪国での活動を他大学の学生とも交流しながら行うことができたのは、大変意味のあることがだ
と思った。普段知る事ができない分野について話をしたり、クロスカントリースキーやスノーシュ
ー体験、雪はネブランティアなど色々な体験をできて、参加してよかったと思ったり、とても
楽しくできることができました。

＜要望＞
実習後すぐにお風呂に入りたかったです。
風呂の時間がもう少し長いとよかったです。
スキーはスノーシューよりも技術が必要だったのので、もう少しスキーをする時間がもっと
よさき、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキーのコースがもっと短く、スキ